

CLINICAL CONFERENCE

症例から学ぶ 上部消化器疾患

連載
第 26 回

胃検診で発見された 胃 MALT リンパ腫の 1 例

末廣満彦 春間 賢 笹井貴子 中村 純 岡 好仁 谷川朋弘
浦田矩代 河本博文 眞部紀明* 鎌田智有** 物部泰昌***

川崎医科大学総合医療センター総合内科2

同 内視鏡・超音波センター*
同 健康管理学**
同 病理学I***

1. はじめに

胃 MALT (mucosa-associated lymphoid tissue) は, *Helicobacter pylori* (*H. pylori*) 感染と関連が深い疾患の1つで, 治療の第一選択は *H. pylori* 除菌治療である¹⁾²⁾。衛生環境の改善など社会的因子の変化により, *H. pylori* 感染率は世界各国で低下しつつあり, 日本もその例外ではない³⁾。日々の内視鏡検査では, 消化性潰瘍や *H. pylori* 感染による萎縮性胃炎の頻度は低下し, 炎症所見や萎縮のない, いわゆる“きれいな胃”や, *H. pylori* 除菌後の胃粘膜を経験することが多くなっている。胃 MALT リンパ腫は *H. pylori* 感染関連疾患の1つであるが, 疾患頻度は低い。最近, *H. pylori* 感染率の低下とともに, 胃 MALT リンパ腫を経験することがさらに少なくなっていると思われるので, 若い先生方への啓蒙の意味を兼ねてここに報告する。本症例は糖尿病や高脂血症などで近医へ通院しており, 最近, 基礎疾患で通院中の患者から進行した胃癌や大腸癌を経験する機会が増えているように思われるので, 検診の重要性を理解する上でも示唆に富む症例である。